

<原木シイタケ害虫「シイタケオオヒロズコガ」のLED捕虫器による防除に関する研究>

研究開発担当 小島 三樹

はじめに

近年、県内の原木シイタケ栽培現場において「シイタケオオヒロズコガ」の被害が発生しており、本試験場では、平成22年からその防除方法の確立を目指し研究を行っています。森林研究だより<さが>2011.3No.31号及び2014.3.No.37号で、LED捕虫器がシイタケオオヒロズコガ防除に効果があることをご紹介しました。

今回は県内の被害状況及び防虫ネット及びLED捕虫器防除方法について取りまとめましたので、報告します。

<シイタケオオヒロズコガの被害>

- ・幼虫がほだ木の中を食い荒らすことによる収量減少
- ・幼虫がシイタケ(子実体)の中に混入する異物混入被害



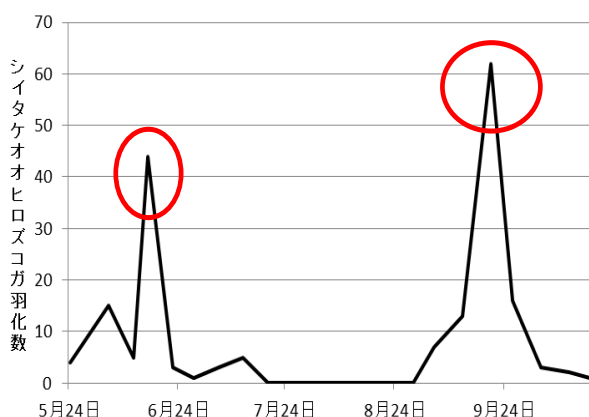
<県内の被害状況>

- ・形成菌を使用した人工ほだ場栽培では多数の被害が確認された。
- ・林内ほだ場では全体的に被害は少ないが捕虫器を設置したところ本害虫が捕虫され、林内でも生息が確認された。
- ・シイタケオオヒロズコガ羽化は6月～7月の初夏と9月～10月の秋の2回見られた。
- ・駒菌を植菌したほだ木でも被害が多く確認された。このため、種菌の形状を問わず本害虫の被害を受けることが分かった。

<まとめ>

◎本害虫はあらゆるほだ場で生息が見られる。また、人工ほだ場のような限られた空間で数年間にわたりシイタケ栽培を行うことで、本害虫の生息密度が拡大し、被害が増えていく。

◎本害虫の被害は古ほだになるとあまり確認されず、発生1年目～3年目の若いほだ木で多く確認された。



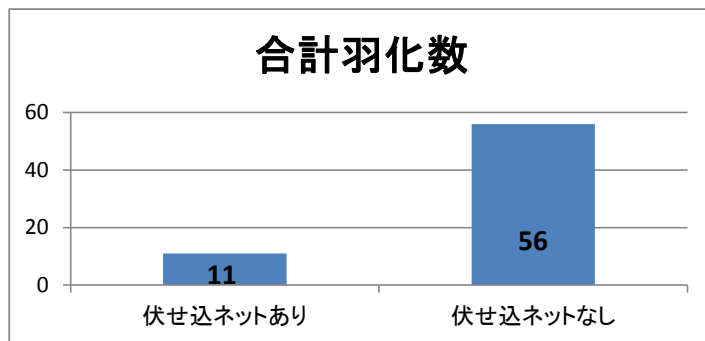
6月～7月と9月～10月に羽化のピークが確認された



シイタケオオヒロズコガ類の脱皮殻

<防除試験結果>

- 伏せ込み時にネット被覆を行うことで発生1年目のほだ木の羽化数を低減することが出来た
(供試ほだ木:平成25年3月形成菌による植菌・各試験区24本)

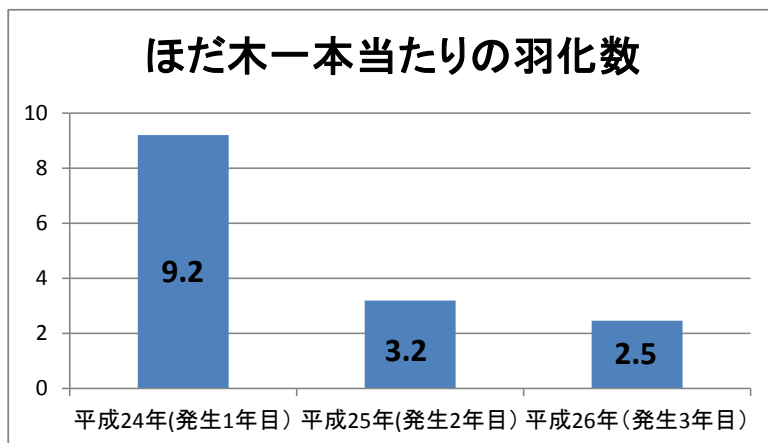


- ・地面に防虫ネットを敷いた上にほだ木を置き、防虫ネットで被覆する
- ・害菌発生の防止のためほだ木に直接防虫ネットがかからないよう設置した
- ・防虫ネットは網目1mm程度のものを使用した

- LED捕虫器を同じ場所に連続して設置することによりほだ木一本あたりの羽化数が減少することが分かった
(供試ほだ木:平成23年4月形成菌による植菌)



LED捕虫器は(株)みのる産業のLEDキャッチャーを使用した
◎捕虫器は地面から高さ20cm~50cm程度の位置で設置する



<防除方法>

- ・伏せ込み時は防虫ネット(網目1mm程度)で被覆を行い、ほだおこし後の毎年5月頃から10月頃までLEDキャッチャーを設置目安に応じて設置する。(下記参照)
- ・羽化数をより低減させるためにはLED捕虫器を設置する際は単年度だけではなく数年継続して使用する

[捕虫器1台あたりの年間コスト]

- ◎捕虫器1台 約8,800円(初年度のみ)
- ◎シート1枚75円×12枚=900円
(設置期間を5月~10月とし、発生の多い6月と9月は毎週交換その他は毎月交換とすると、1基あたり12枚のシートが必要)
- ◎電池交換
アルカリ電池3本=240円
初年度コスト10,100円
次年度以降のコスト1,140円

(参考)設置目安 : 20㎡に1台
※被害程度に応じて設置台数を増やしてください

佐賀県林業試験場研究開発担当
TEL 0952-62-0054